

# 平成 17 年度 NBRP-情報-運営委員会 議事概要

開催日時:2005年10月4日(火)14:00 - 17:30

開催場所:国立遺伝学研究所本館2階応接室

参加委員:荒木委員 磯野委員 奥野委員 菊池委員 小林委員 城石委員 菅原委員 中村委員

深海委員 藤田委員 水澤委員 山崎委員 吉川委員代理 倉島 治 渡邊委員

オブザーバー:文部科学省研究振興局ライフサイエンス課 主任 中山 亮

科学技術振興機構 井上 聡子

事務局:国立遺伝学研究所管理部総務課

(欠席委員:倉田委員)

## 【冒頭】

山崎委員長より本委員会開催の経緯等説明があり、今回の委員会より6名 の新委員に参加いただくことの報告があった。

委員及びオブザーバーの自己紹介を行い、文部科学省中山様からご挨拶を いただいた。

## 【議事】

### 報告事項

#### 1. 「GBIF」について

「資料4. GBIF報告資料」に基づき、菅原委員から説明があり、以下の質疑応答があった。

##### ●省庁間の連携について

・窓口は外務省であるが、関係省庁連絡会など各省庁で連携し対応を行っている。その下にさまざまな作業部会があり、検討する場を設けている。

●振興調整費による「生物系研究資材のデータベース化等」(平成13 年度終了課題)では、JSTでデータベース研究班があった。その成果はGB IFに引き継がれているのか？

・振興調整費で構築した生物資材データベースは、生物多様性情報ではなく生物研究資材情報であり、GBIFよりむしろNBRPに近い。

#### 2. 「GAIN」について

「資料5. 大型類人猿情報ネットワークについて」に基づき、倉島氏から説明があり、現在は死亡個体由来に限定しない資源配布や国内飼育個体の保全等を目的としたNPOを立ち上げ、活動を行っている旨の報告があった。

### 3. 「NBRPシンポジウム」について

「資料6. NBRP シンポジウム資料」に基づき、山崎委員長から説明があり、以下の補足説明があった。

- ・分子生物学会におけるパネル展示の場所についてはできるだけ考慮したが、ポスター展示が例年より多いため状況は未だわからない。
- ・3月19～21日に、筑波大学にて植物生理学会が開催され、3時間程度のオーラルを計画しているが日程は未定である。

### 4. 「JST活動報告」について

「資料7. JST活動報告」に基づき、井上氏から説明があり、以下のような質疑応答があった。

- 「原虫」の分譲依頼については、寄託先の中核機関ではなく、管理者へ連絡をとるという体制には危機感を感じる。人が異動することで、リソースも同時に移動してしまい、継続性が担保されないのではないかと？個人ベースではなく、機関で対応すべきではないか。
- ・分譲依頼は管理者へ連絡をするようになるが、リソースは各機関で保存されている。MTAも整備されつつある。長崎大ではメーリングリストを作成し、関係者に連絡がいくようになっていく。継続性については、例えば研究者が定年で退職される場合は何らかの手段で継承されるようになっていくと思われる。
- 酵母に関しては日本中の全機関を網羅しているのか？
- ・NBRP酵母の中核機関およびサブ機関(大阪市立大学および大阪大学)が運営する酵母遺伝資源センターに対し、国内の研究グループが持っているリソースの寄託が進められている。
- ・データベースの作成については、一度作ったときにと何年継続され、利用されるかが問題と思う。NBRPのデータベースについてはどうなるのか？が今後が問題と考える。
- 病原性の高いものも含め、すべて情報を公開しているのか？
- ・各機関が判断し、病原性の高いものについては情報公開していない。
- 危険な菌だが純粋な研究をしたい場合についても情報はわからないのか？
- ・各機関で個別のデータベースはもっており、必要に応じて情報提供される。

・バイオテロリズムの関係で危険な菌類については一般には情報公開しないよう定められている。

## 5. 「国立遺伝学研究所報告」について

「資料8. 国立遺伝学研究所に関する報告」に基づき、山崎委員長から現在までの事業の経緯と状況説明及び、今後の方針案についての提案があり、以下の議論がなされた。

### 協議事項

#### 平成16年評価報告書における指摘検討とその対応について

##### ●Web上でのアンケート調査について

- ・データベースの公開というだけであれば特に心配はないのだが、分譲も行い、さらに要望も受け付けるということであれば要望への対応という問題が発生をする。
- ・生物種によっては「Q&A」を設置して要望への対応をしているものもある。
- ・細胞バンクでは日本組織培養学会で一般的な質問を受け付けており、非常に丁寧に対応しよう心がけている。
- ・リソースにもよると思うが、研究コミュニティが大きいものほど、応えることが非常に困難なリクエストをする方がいる。
- ・アンケートの「NO」は日本人に多いとのことだが、「NO」にこそ発展の余地があると思う。
- ・「利用者のニーズを把握する」ことについては、まず個々の研究コミュニティが意見をとりまとめ、情報の中核へ意見をあげるという姿が一番なのではないか？

##### ●NBRPの成果調査について

- ・データベースの名称に個性がある場合は検索しやすい。
- ・成果公開について、熊本大学では、データベースに登録しているリソースを用いて論文発表を行った場合は、その情報を下さいと言う旨の記載をMTAにしている。
- ・ユーザーの意識は時代とともに変わる。配列情報は今やアクセス番号をとらなければパブリケーションできない時代になった。積極的に働きかけていけばユーザーや研究コミュニティの意識を変えていくことができる。そのことの指導的な役割を果たしていくべきではないか。
- ・いろいろな角度で努力する必要があるが、後追いで成果について調査することは困難。研究者の文化として、成果を作成する際には資源やデータベースについても、何を利用したかを記載するようジャーナルの編集者へも働きかけるべきだと思う。
- ・以前、ライフサイエンス課からリソースを使用した場合の明記方法を定めた指針をつけたらよいのでは？というコメントをもらったことがある。環境研ではNIESという名称をつけている。

- ・リソースの場合はアクセッション番号の制度はよいと思う。
- ・分譲したリソースを利用し、成果が出た場合は連絡をする旨が分譲の条件となっているが成果について連絡してくれた方は率にすると1~2%程度である。
- ・成果について追求しすぎることはまた別の問題が発生する恐れがあるため難しい。
- ・菌類では新種の場合は、2機関に寄託することがルールとなっている。環境研では3年間経過した後フォローアップを行う。西洋の方はリソースの提供を受けたことに対するモラルとして、成果についても連絡をくださる場合が多い。東洋の方はそのような文化が定着していない気がする。中核が努力をする必要がある。
- ・形式的な論文だけで評価してもよいのか？という議論はある。財務当局への説明にはリソースがあっただけで研究が発展したことを明示すること、説明しやすい形でとりまとめられることが必要。どのリソース、どのデータベースを利用したかについても記載をするようジャーナルの編集者へ働きかけることは必要。
- ・国際的なジャーナルに掲載されることが評価される一因となるのもよいが、特許申請や産業育成、製品開発につながったというところまで求めるのか？ライフサイエンスの振興にどれだけ役立ったかということが大切ではないのか。NBRPはピュアサイエンスのための事業であると聞いたことがある。しかしながら財務当局への説明という観点であれば、もう一步踏み込んだ成果の評価が必要となるのではないか？
- ・インパクトのある成果は必要。
- 情報のバックアップについて
  - ・昨年度の指摘事項であった「バックアップ体制」については、比較的安価な方法で実践している。
- 総合検索や情報のアップデートについては？
  - ・総合データベースはXMLを用いて構築しており、遺伝研内部のデータベースは自動更新している。理研マウスのデータは更新の都度FTPサイトから取得している。
- NBRP情報としてのあるべき姿について
  - ・海外のデータベースプロジェクトを見ても、永続的にサポートされるというものはなく、その時々でファンドが変わっていつている。
  - ・特に情報の分野では世界最高水準になるには大変な費用がかかる。長期的な経費負担は難しいと思うが、コアの部分の維持は必要であるため、コアの部分を支えるためには長期的に考えてもらうことは必要。評価する側も現状を理解いただき、成果に関しては本事業のリソースが分譲されたうちの10%も活用されることの大変さを評価してほしい。
  - ・NON-NBRPではあるが、遺伝研にある藻類のカルチャーコレクションデータベースは世界に遺伝研にしかなく非常に貴重である。しかしながらサポートされておらず、このままではせつかくの情報が死んでしまう。アップデートをすれば、非常に有

意義なものであるので活用されると思う。

- ・他のプロジェクトで作成した利用価値が高いデータベースを NBRP 情報 として引き取り、維持管理するという事も考えられる。しかしながら、メン テナンスの作業が非常に大変な作業量になる恐れもあり、安易にはできない が、競争的資金では得られない内容を NBRP 情報が受けるという考え方もある。

- ・NBRPはリソースがあって、その上にデータベースがある。情報だ けの収集もあるかと思うが、リソースとリンクした情報というのが大切と考 え るが。

- ・リソースがなく、情報だけで動くプロジェクトも多々あったが、うま くないかなかったものが多いと思う。

- ・NBRPだけでなく、他のデータも見たいという要望もあるだろう。 NBRP の個性をどう出すかが重要だと思う。

- ・各リソースに情報のプロが張り付いて、リソースと情報を一体化させ て行うのがベストではあるが、コストが大変かかるため実現は困難であろう。

- ・コスト意識という観点から分散型と一極型のコスト比較は大切だと思 う。

- ・やはりリソースと合わせて情報も考えるべきだと思う。第2期でプロ ジェクトの範囲に入らなかったリソースの情報は「情報整備プログラム」とし て落としてしまっただけなのか？という問題も発生する。

- ・他省庁も含めたオールジャパンでサポートをすべきだと思う。日本と してのリソース情報については NBRP 情報が担っていくというミッションは大切 だと思う。

- ・第2期のプロジェクトの範囲に入らなかったリソースがあった場合に は情報だけは活かしていく様にすべき。ナショナルプロジェクトであるので、 文科省関係機関の資源に偏らず、他省庁のリソースも積極的にとりいれるべき である。利用者から見れば、統一したほうが利用をしやすい。

上記の議論を踏まえ、山崎委員長から以下の発言があった。

本日の議論を踏まえ、今後はメールにて委員の皆様のご意見を伺いた い。結果をとりまとめ、委員会委員には確認していただいた上で、まとめたも のを文部科学省へ 提出を行いたい。

### 「その他」について

- NBRP第2期の議論はどのようにされるのか？

- ・ライフサイエンス委員会の下にNBRPの作業部会が設置される予定であり、各事業の意見を集約した上で、作業部会の場で検討されると思われる。